

かわいそうな王子様は

悪い魔法で

お城のメス便器に

されてしまいました





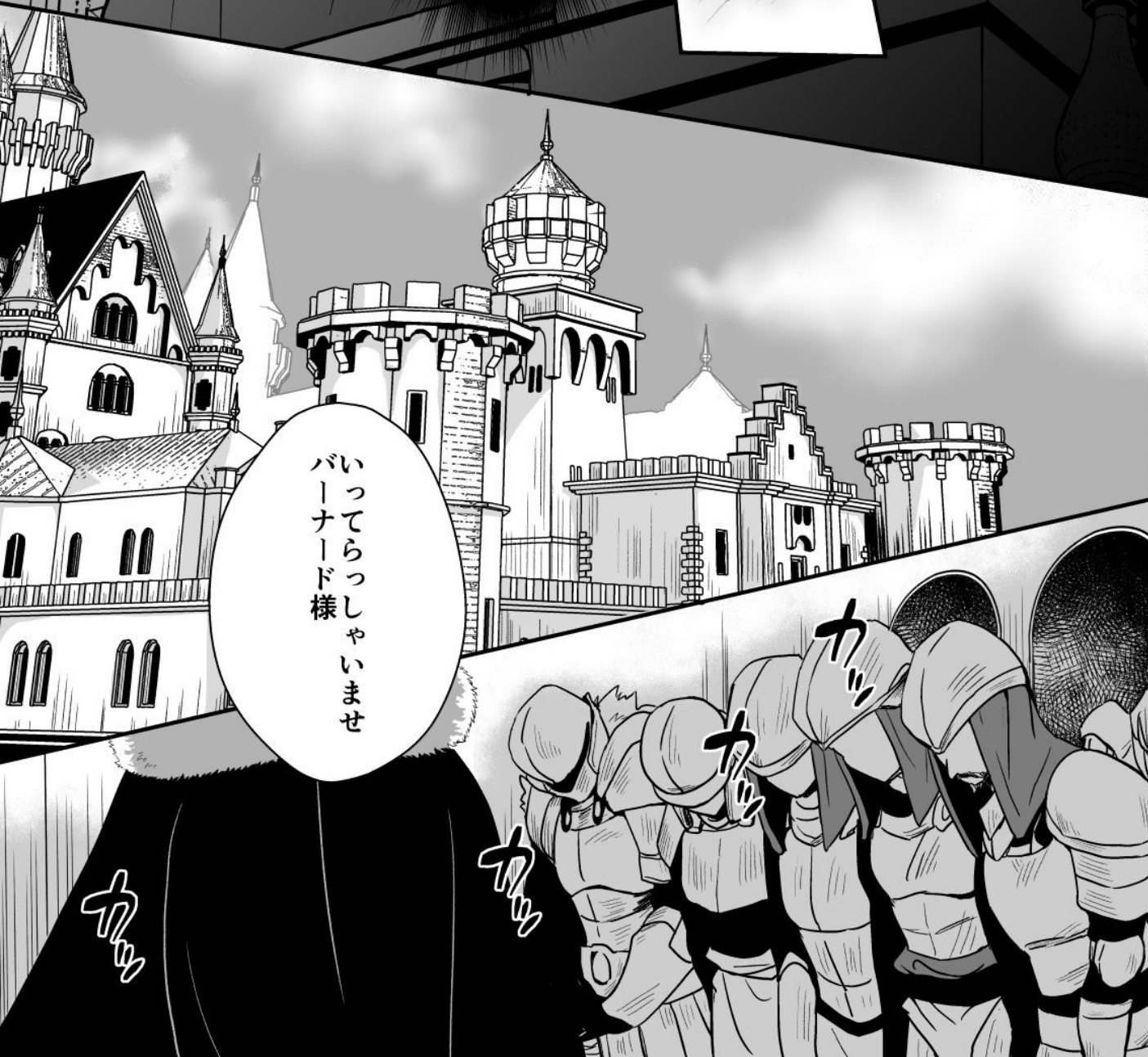


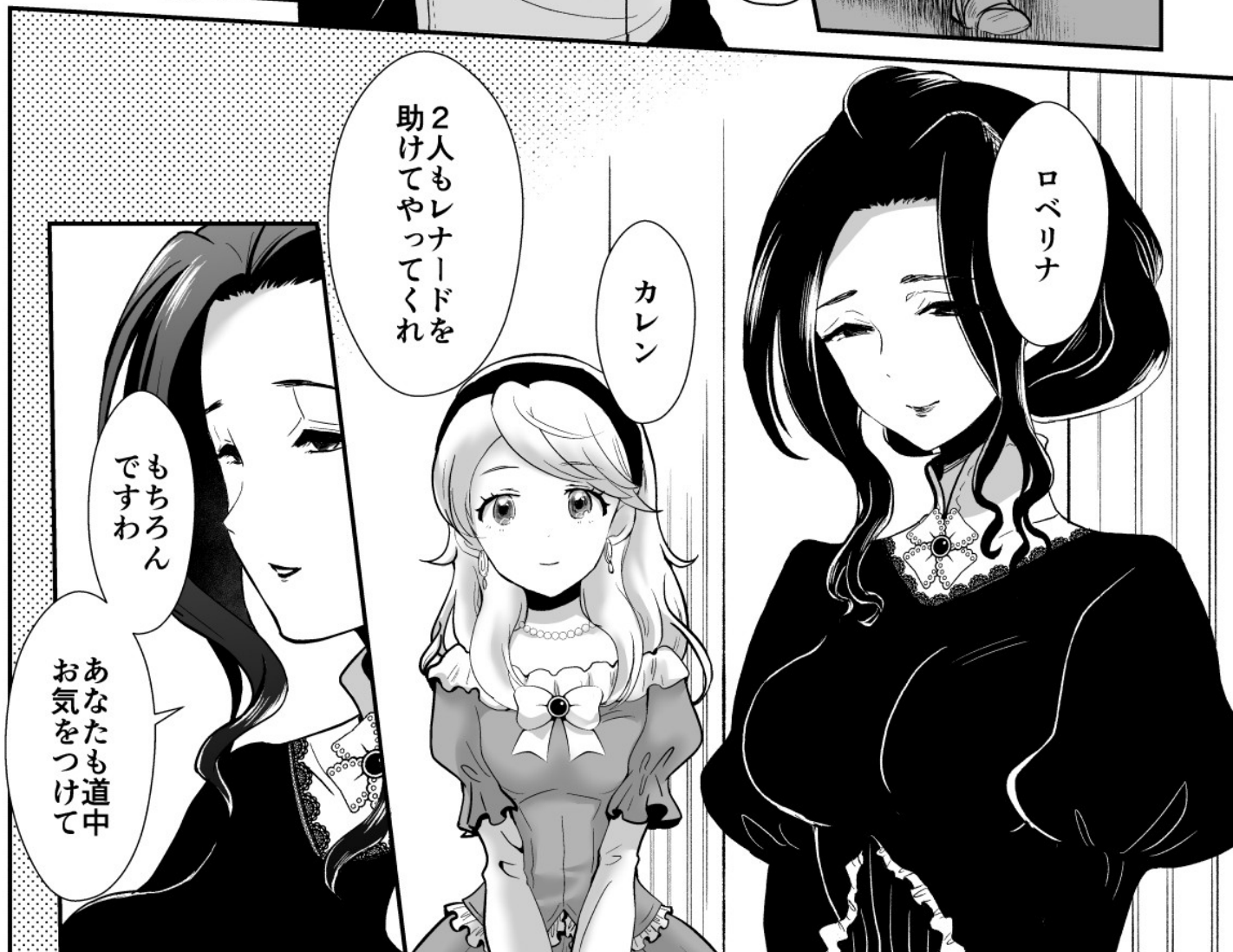
女のような
衣装をまとって

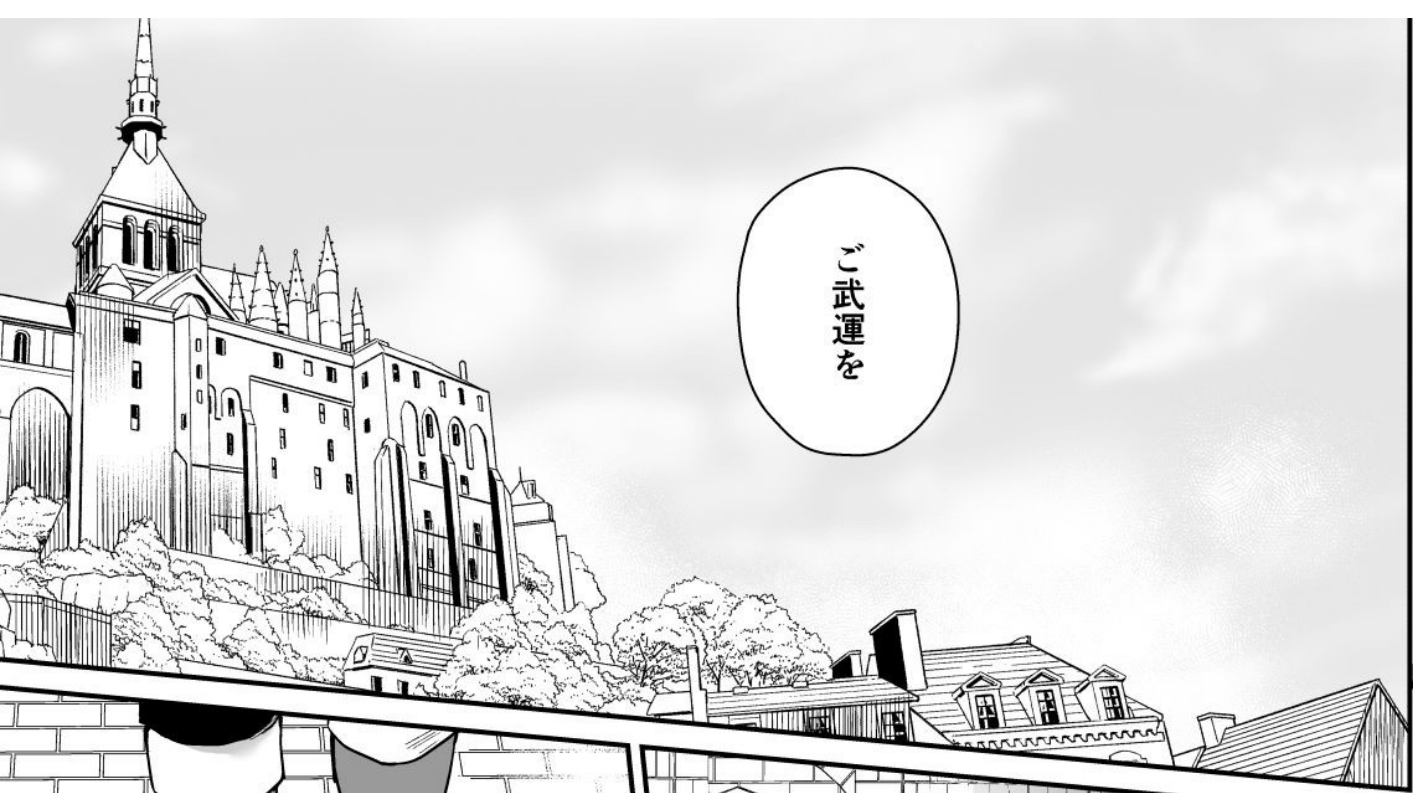


娼婦のような

淫らな真似を
している











女どもも
何をあんなに
はしゃいでいる



まったく
たるんでいる！

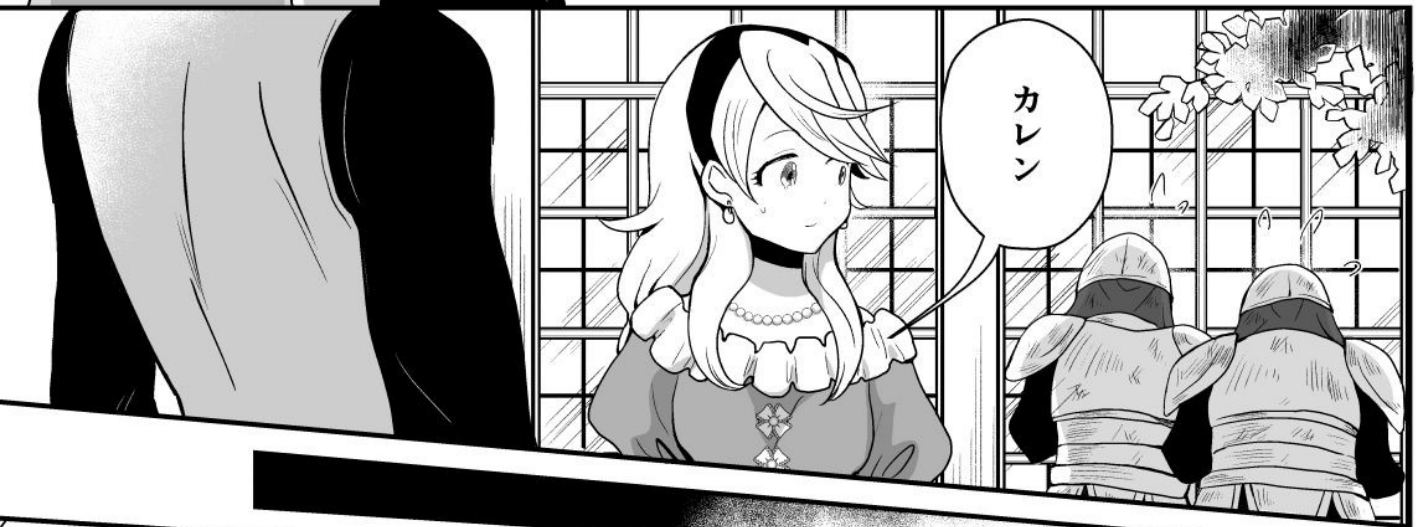
休れ
します

父上がいないと
すぐにこれだと

状況がわかって
いないのか？



あの者たちが
どうかさい
ましたか？



カレン



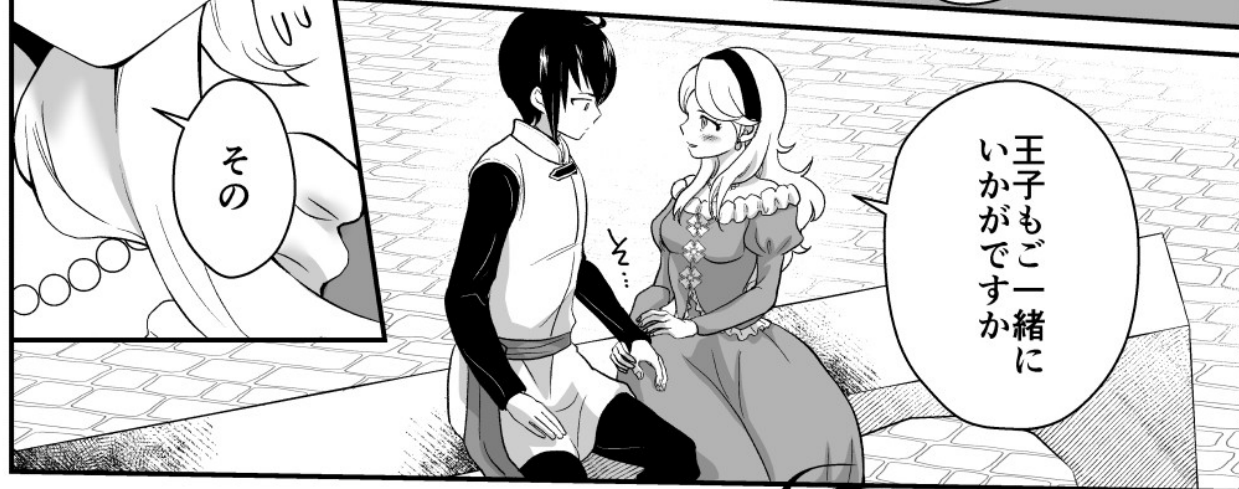
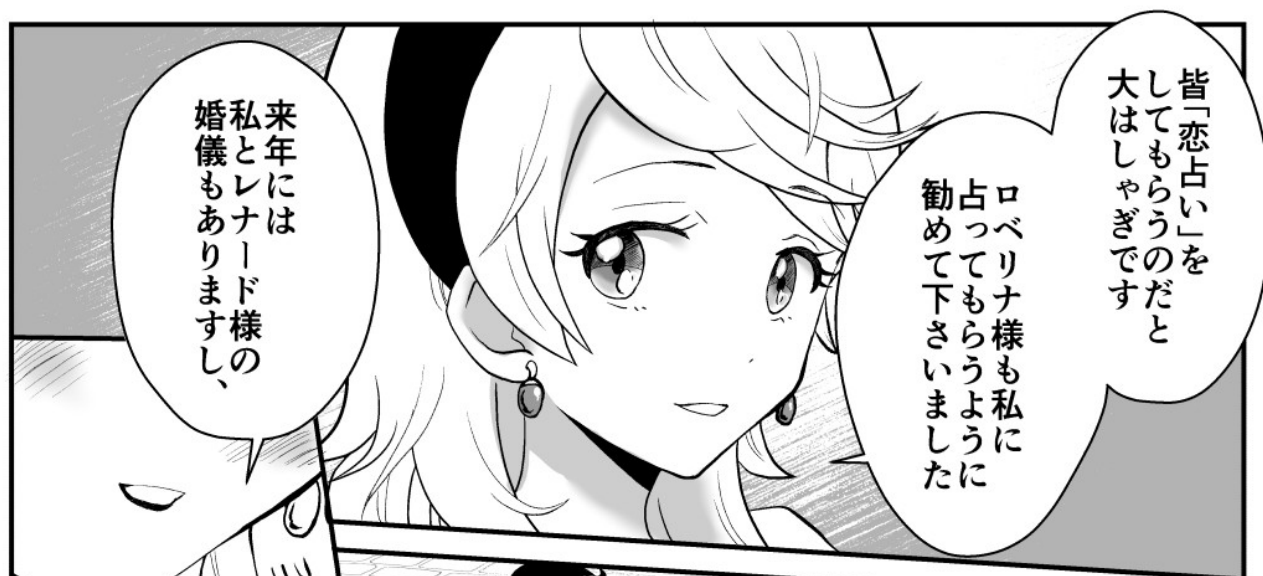
母上が！？

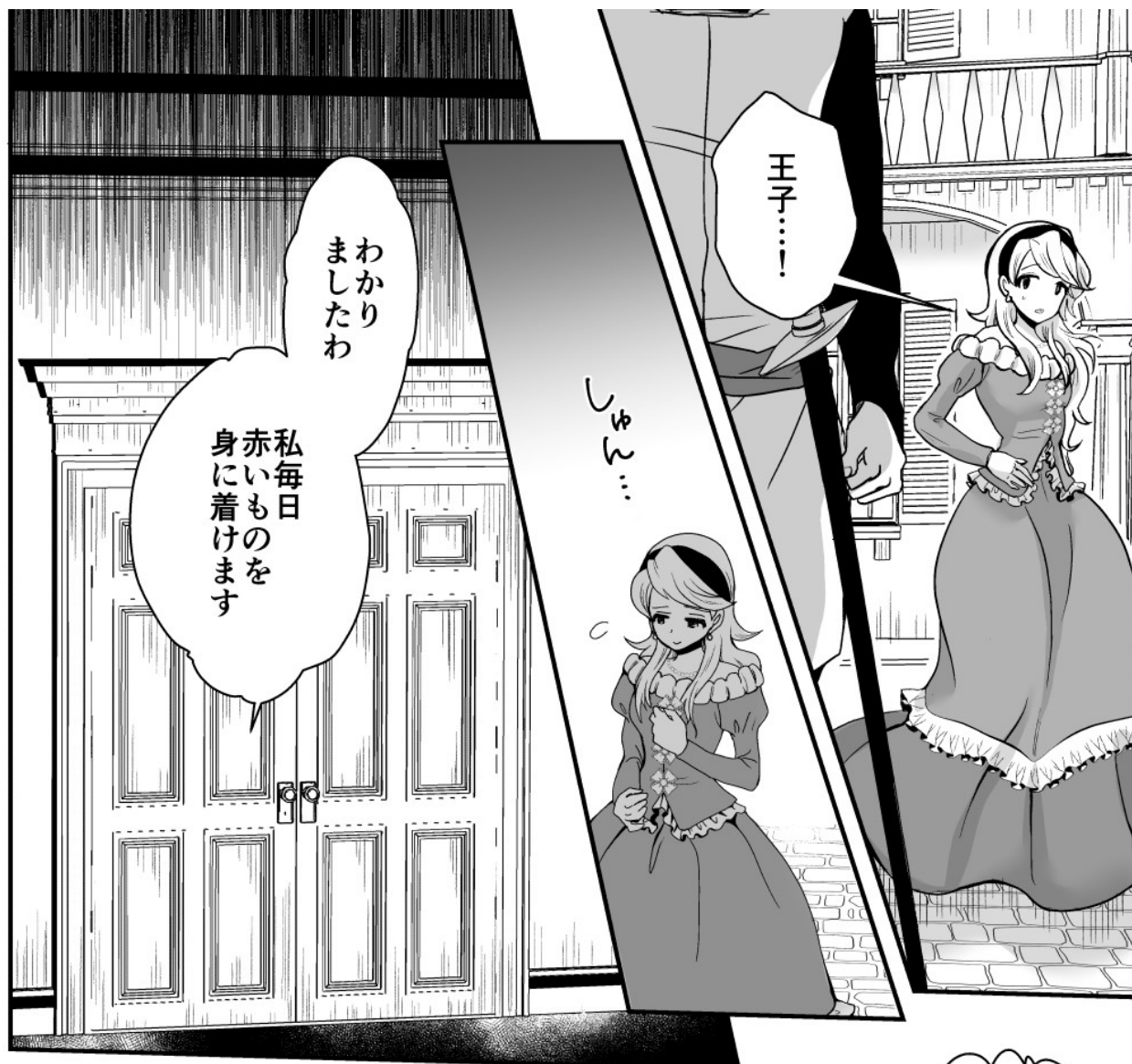
少しでも沈んだ
城内の雰囲気
を明くしたか
うでしよう



ああ
それは

ロベリナ様が
街の評判の占い師を
招かれたからですわ





お待ちしておりました
レナード王子

得体の知れぬ「占い」など
母が許しても私が許さぬ

今すぐこの城から
出ていけ

そう言われましても
私は女王様より
あなた様を占うようにと
仰せつかっておりますゆえ

そんなもの
私には必要ない！

ニヤ

ふふ…あなたは
女王様の仰る通り

思慮の浅い
お方だ

カタン

なに…!

自らの剣技に
自信があるとはいえ

「得体の知れぬ」
占い師の元に
護衛もつけず
単身で乗り込むなど

なんだ

身体が

次期王としての
自覚が足りないようですね
レナード王子





これ…は

ピク

なぜ私は
このような格好を

これでは
まるで

そう
娼婦です

夜も
更けました

これから
あなたは

毎晩城中の兵士たちに
娼婦のように
奉仕しなくては
なりません

……！

お忘れですか？

王に任された
大切な仕事ですよ？

き

……無理だ

そのようなことは……
できない

おや
なかなかしぶとい

もう少し
強めの暗示を…

私には経験が

ない

どうすればいいのか
わからない

婚約者の
カレン様とは？

母が正式に婚儀を
交わすまでカレンには
触れてはならぬと
それが男女の礼儀だと
教わった

キラ

なるほど
そうでしたか



占いごととは関係なく、
私でよければ
お手伝いできますよ

私も
男ですからね



本当か
しかし…

城の者には
聞きにくい事も

部外者である私になら
話しやすい事も
あるでしょう



どうせ私は
ここを去る身ですから

そう…だな

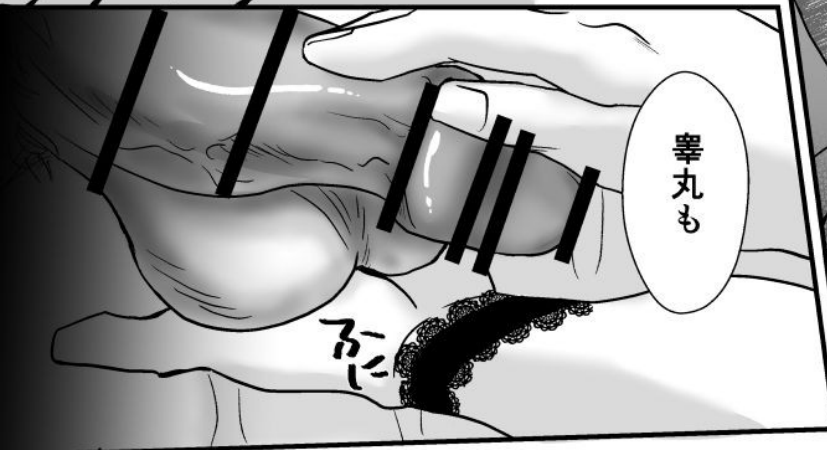
すまない、
私はお前を
追い出そうとしたのに

父が留守の間
私の助けになってほしい



手で包み込むように
優しく触れて下さい

これを触る



睾丸も



それではまず
手と口を使って
奉仕してみよう



口に唾を溜めて
私の亀頭を濡らすんです



やわらかくて

重い



父上に
失望されたくない

辜丸も口に含んで
手は竿や亀頭を刺激して

カリや裏筋も
舐め上げて下さい

あなたの小さな
可愛い舌だね



あなたの小さな
可愛らしい舌だね

上手ですよ

どんどん
固くなってる





そうです
王子は才能が
おありだ

今日はこちらが入るまで
慣らしましょう



ここに男根を
受け入れるための
性具ですよ

入れる...?
おとこ...?



入るはずがない
そんなもの

よせ!
何をする...!



ご安心下さい

あなたの負担を
減らす薬を
塗っております

だんだん
楽になってくる
はずです



少しずつ広げて
慣らしていくんですよ





そんなことは
ごさいません

男の胸など
触ったところで

気持ち悪い
だけだろう

触れられる事で
あなたが
乱れる姿に

男は興奮する
ものです

どこに触れられても
喜べるような

淫らな身体に
生まれ変わって
もらいますよ

王子

生まれ
変わる...



ここにも薬を
塗ってあげましょう

変わりたい



私は



手が止まって
ますよ

しっかり
ご自身で解さないと



ピリピリ
する...う...

いいですね、
狭くて
絡みついてくる

奥に…っ

はっはっ

きゅん
きゅん
きゅん

届いて

はっはっ
はっはっ
はっはっ

頭がおかしく
なる…う…

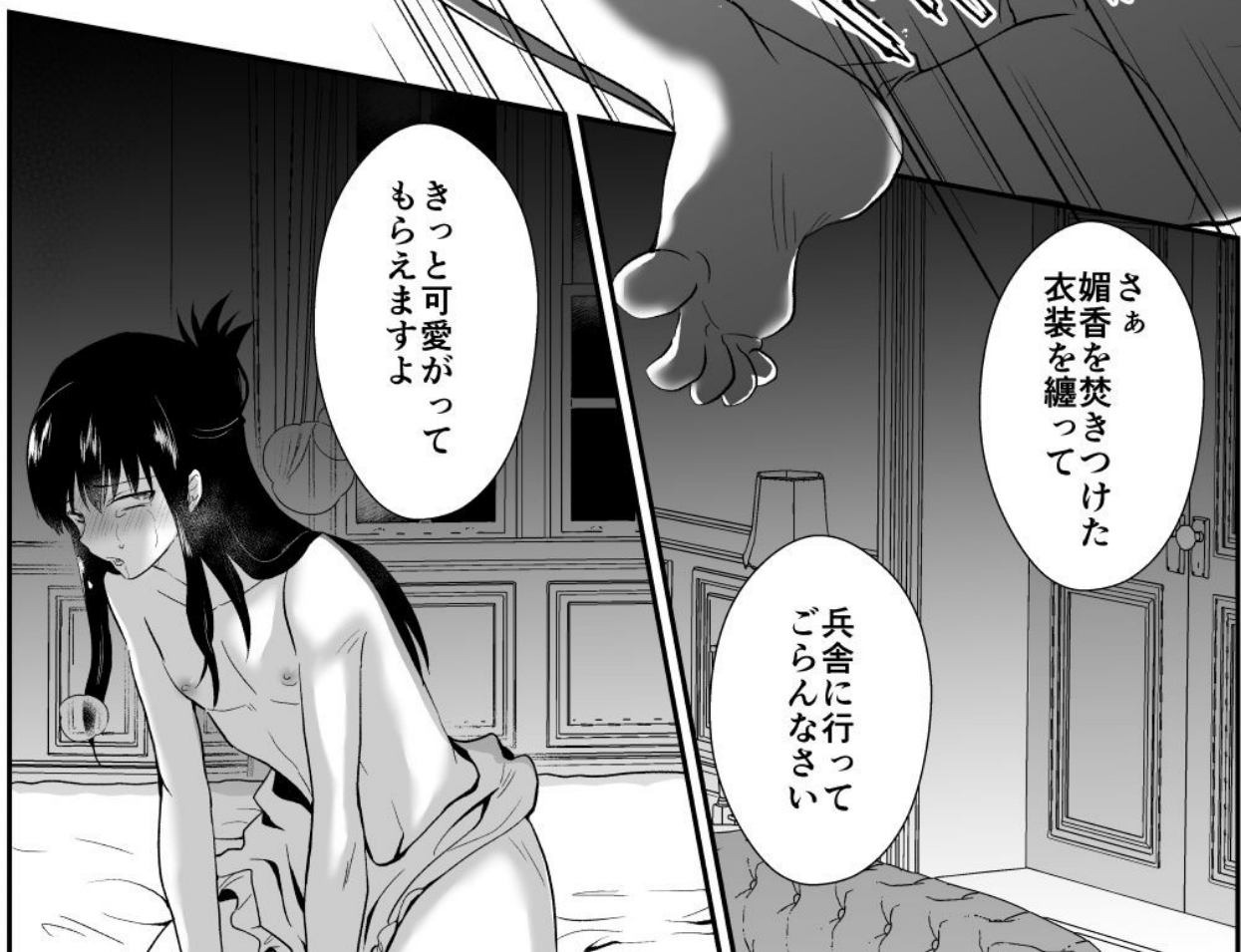
ふぁ…うら
はっはっ

痛みは
ないはずだ

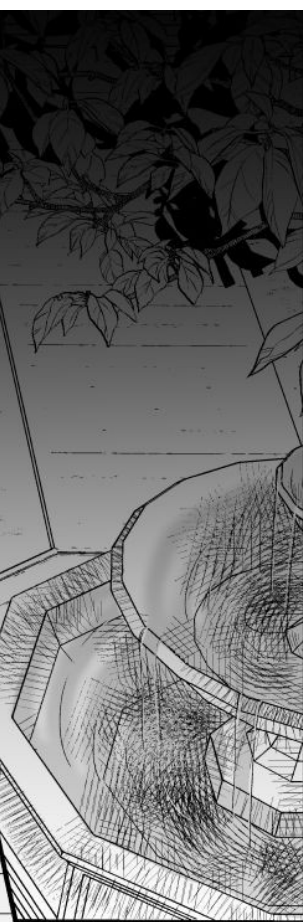
ね、王子

はっはっ
はっはっ
はっはっ

はっはっ
はっはっ

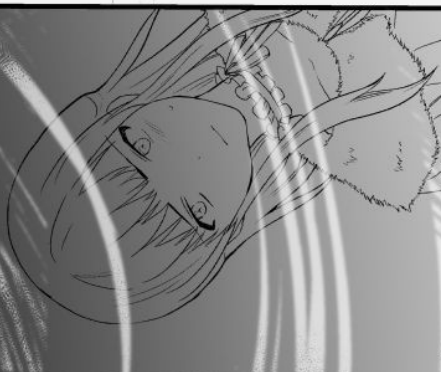


媚香と薬で
身体が疼く



上手くいくの
だろうか

男の私が
女装などで



王子のままだと
皆委縮して
しまいますよ

慣れるまでは
娼婦のつもりで
おやりなさい

確かに：
そうだな

私は皆に
疎まれてるし：

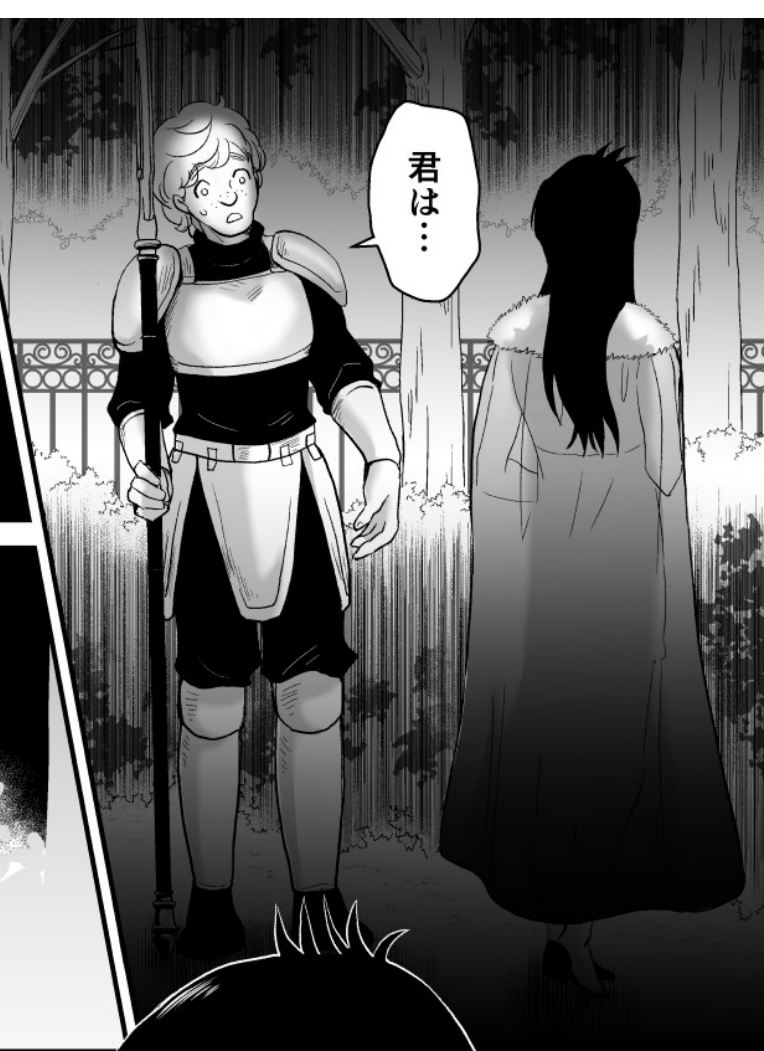
王子としてではなく
娼婦になったつもりで：

誰だ





私はレナと
申します



君は…



娼婦…だよな
誰かが呼んだのかな

えっと…
レナ

どうしたの、君
こんな所で…



たくさん
ご奉仕いたします

騎士様どうか
私を使って下さいませ

男娼か
男!

いい香り
くらくらする



香のおかげとはいえ、
こんなに反り返って…



もう
固くなって
いますね



大丈夫
習った通りに
奉仕をすれば



早く
私の中へ…♡



素敵です
ハンス様

あ…あ…
レナ…







あ
ハンス様...あ

まだ
できるよ

ね、
もっとしよう

気持ちいい

私が気持ちよく
なつてどうする

さつきよりも
ずっと...!

私の仕事は
目の前の男に
奉仕することなのに





また会える？

お店があるなら通うから、
君のこともっと教えて

明日の晩も
お会いしましょう



たくさん
可愛がって下さいね



♪

♪

うふふ

とら

♪

かわい
レナちゃん

明日はどんな衣装に
しようかしらあ